

「EM生ごみぼかし堆肥」 Q&A

1 「EMぼかし（発酵堆肥化促進材）」

Q 「EMぼかし」の有効期限、保存方法、カビが生えてしまった時は？

「EMぼかし」は冷暗所に保管し、6ヶ月ぐらいを目安に使い切ってください。嫌な匂いがしている場合や青カビが生えた時は、そのまま土の中に埋めてください。

Q 「EMぼかし」の表面が白くなり固まった感じ、もう使えない？

湿度の高い時期には水分含有量が増え、ぼかし中の放線菌が活発化して白く固まる場合があります。固まりをほぐして乾かしてから使います。

2 「EM生ごみぼかし」の作り方

Q 「EM生ごみぼかし」を成功させるコツは？

- ①必ず密閉容器を使う。
- ②生ごみの水をしっかり切る。
- ③大きな生ごみは、細かく切る。
- ④生ごみの鮮度が大切。出たごみは、その日のうちに処理する。
- ⑤三角コーナーいっぱいの生ごみに、洗剤スプーン山盛り一杯の「EMぼかし」を振りかける。（腐敗しやすい夏や水分の多いスイカ、魚のアラなどは多めに使用）
- ⑥バケツの生ごみの上にビニール袋などを置き、手で押さえて空気をできるだけ抜く
- ⑦直射日光にあたらない場所に置く。（適温は15℃以上。冬はバケツ内温度が50℃以上にならなければ、陽当たりの良い場所に置くのもOK!）
- ⑧バケツの底に溜まった発酵液は、こまめに抜く。

Q ふたを開けると臭う。臭いを少なくするには？

一般的に「EM生ごみぼかし」は「臭くない」と言われていますが、「無臭」ではありません。本来、「EMぼかし」の持っている糠の匂いや多少生ごみの臭いがします。しかし、それが鼻を突くような悪臭の場合は失敗です。臭いが軽い場合は「EMぼかし」をかけます。また、バケツの底に溜まる発酵液をこまめに抜けば、臭いを和らげることができます。

Q 大きめのバケツで虫がわいた！ 適切なバケツの大きさとは？

生ごみ量が少ない時に大きなバケツでつくと、その分空気の量が多いので腐敗の原因となります。また、生ごみについていた虫の卵も湿度と温度の条件が揃うとふ化することがあります。一般的に4人家族では、10～15ℓのバケツが適切な大きさです。

Q 漬物など塩分の多い残菜を「生ごみぼかし」にできるか？

塩漬けものばかりをバケツに入れるわけではないので大丈夫です。家庭で使う調味料程度の塩分であれば問題ありません。

Q 「EMぼかし」の使用量は、季節や生ごみの種類によって違いますか？

- ① 「EM生ごみぼかし」をつくり始める時は、発酵促進のためにバケツの底に一握りの「EMぼかし」をまき、その後、2, 3日間は少し多めに振りかけてください。
- ② 「EMぼかし」の使用量は、三角コーナー1杯の生ごみに対して、洗剤スプーン山盛り1杯(20~30g)が適当です。特に、腐敗しやすい夏や魚のアラなどは「EMぼかし」を多めに使用してください。

3 「発酵液(液肥)」

Q バケツの発酵液を上手に抜くには？

コック付のバケツを使えば簡単です。コックが付いていないバケツは、バケツの底に「ザルや蒸し器のサナなど」を置いて、その上に小さい穴を開けたビニール袋やネットを入れて、その中に生ごみを入れて処理すると発酵液が抜きやすい。

Q 発酵液はいつ抜くの？

発酵液を溜めたままにしておくと発酵が遅れ「EM生ごみぼかし」が腐敗する危険性があります。発酵液は、こまめに抜き取ってください。抜くことによって「EM生ごみぼかし」の匂いも和らぎます。発酵液を抜き取ったらその日のうちに液肥として使いきってください。

Q 発酵液(液肥)の用途は？

◆肥料に

発酵液を水で薄め追肥として、根元にまいてください。適切な希釈割合は、野菜で1000倍、草花で2000倍です。使用頻度は1週間に1回位が適当です。

◆消臭に

汲み取り式のトイレには、原液か10倍程度に薄めた発酵液を流してください。流し台や風呂場などの排水口から流せば、ぬめりが取れて嫌な臭いも和らげることができます。

4 「EM生ごみぼかし」をつくる途中

Q カビが生えた！失敗ですか？

- ◆悪臭がなければ大丈夫、白カビならば大成功です！バケツの密閉状態が悪いとカビや悪臭等が発生することがありますが、その時は、もう一度「EMぼかし」を振って様子を見てください。
- ◆黒カビ、青カビは失敗です。失敗した「EM生ごみぼかし」は、畑に穴を掘って埋め、その上から「EMぼかし」を振りかけて厚めに土をかぶせ踏み固めてください。

Q バケツの置き場は？

発酵の適温は15℃位以上で、夏は直射日光の当たらない風通しの良い日陰に、冬は暖かい所に置く。バケツ内温度が50℃以上にならなければ、陽当たりの良い場所もOK！

Q 「しょうじょうバエ」がわいてしまった、どうして？

バケツの密閉が不十分であったり、生ごみの鮮度が悪くハエが卵を産み付けてしまったことが考えられます。そのまま土に入れて、しっかり「EMぼかし」を振り掛けて厚めに土をかぶせてください。

Q 「EM生ごみぼかし」が熟成できた判断は？

匂いで判断します。ぬか漬けのような酸味のある甘酸っぱい匂いになればできあがりです。期間は夏冬で違いますが、およそ生ごみの投入を止めてから夏は1週間、冬は3週間程度です。日にちが経っていなくても甘酸っぱい匂いや白カビが生えていれば熟成完了です。

5 堆肥利用

Q 「生ごみぼかし」は、酸性が強いですが、石灰で中和の必要性は？

酸性が強いのは埋めてから1週間位で土になじみ中性となるので、石灰は使用しなくても大丈夫です。

Q 埋めた場所からかぼちゃの芽がでてきた。なぜ？

「EM生ごみぼかし」の中の種子は未加熱の場合、生きています。芽が出たら抜くか、生ごみに種を入れしないでください。

Q 毎回、埋めないで、そのまま土の上に置いても効果はある？

そのまま、土の上に置いておくと、空気中の雑菌がつくので腐敗しやすく、鳥獣害を受けることがあります。出来上がった「EM生ごみぼかし」は、土に埋めるか、コンポスターへ入れてください。

Q 「EM生ごみぼかし」を、コンポスターで熟成させる方法は？

バケツで熟成した「EM生ごみぼかし」をさらにコンポスターで熟成、保管することができます。「EM生ごみぼかし」をコンポスターに投入したら、その都度、落ち葉や草を入れて混ぜ、その上に生ごみがみえない程度に土をかけます。コンポスターが一杯になるまで、この作業を繰り返し、半年から1年程度を放置すると堆肥になります。

コンポスターを使うと、以下の利点があります。

- ①毎回の穴を掘る手間が省けて保管しやすい。
- ②枯葉や草が混ざっているので良い肥料になる。
- ③熟成された生ごみが入っているので、従来より早く堆肥になる。

Q 「EM生ごみぼかし」をプランターなどで使うには？

プランターで使う場合は、しっかり熟成させます。プランターの上下層に1/3 ずつの土と、中層に「EM生ごみぼかし」と土を混ぜたものを1/3 入れ、土が乾かないように時々散水します。1 か月位経過してから植え付けてください。

Q 掘り起こしたら、ウジがわいていた！どうしよう？

魚の内臓や卵の殻に菌が付いていたことや、埋めた日の前後に雨が多くて土の中が水分過剰だったことも考えられます。もう一度「EMぼかし」を振って、土を厚めに被せEM菌を繁殖させてください。

Q 「EM生ごみぼかし」の他に、肥料は必要？

「EM生ごみぼかし」の成分は、生ごみの種類によって多少異なり一概には言えません。野菜には、ある程度の化学肥料を使うことが必要です。また、花壇の草花や植木には「EM生ごみぼかし」がある程度量入っていれば、化学肥料を使わなくても良いです。ぼかし堆肥の効き目は一般的な肥料と比べれば遅いので、植え付け前から施用してください。

Q 「EM生ごみぼかし」を畝^{うね}に埋める場合と、1か所にまとめて埋める場合の違いは？

- ◆畝に埋める方法は、畝の真下の土壌の改良と肥料効果を通して植物の成長を持続的に促進します。但し、未熟な「EM生ごみぼかし」を浅く埋めたり、植え付けまでの期間が早すぎると、根を痛め生育不良の原因になります。
- ◆まとめて埋める方法は、庭木の間などに利用します。畑の畝間などにまとめて埋める時は、「EM生ごみぼかし」と土を混ぜ合わせて、上からさらに土を厚めにかぶせて下さい。